

『国際協力のひとこま』 ③

★受託事業事例紹介／マルチセクターで取り組む食を通じた栄養改善コース（実務者向け）

一副題；想定通りいかないことも！乗り越えるには？！

突拍子のない書き出しですが、『予定は、あくまで予定であり、確かとは限らない』などと言われることが少なくありません。一般的には、事業計画において、事前に様々な前提、状況を想像しながら、準備・計画するのですが、想定範囲を超えてしまうこともあるものです。

今回の研修プログラムに当たっては、ここ数か月は、世界的に、新型コロナ感染も、縮小基調を踏まえ、かつ国内でも新たな感染者数が、徐々にではございますが、減少に転じている中、実り多いプログラムにしたいと様々な視点での企画を進めました。海外からの受入（来日）での研修実施では、ここ数年の遠隔（オンライン）研修とは違い、対面研修の良さ（コミュニケーションの風通しの良さ、研修への集中度、視察を通じた手触り感のある学び等）を感じられるよう、アカデミックな講義に加え、より現場感を感じられる実習・演習や現地視察を多く組みいれました。

特に、今回は、現地の町関係者の受入可能とする好意もあり、少しでも途上国の農村環境に近い環境にある信州地域の町で、活動を展開されているいくつもの住民グループ、町関係者にお世話になりながら、地方農村での住民グループの皆様の活動状況視察や町の環境点検や営農スケジュールなど現場ならではの演習を、進めることが出来ました。

視察・演習に当たっては、約2か月前に、事前の現場の方々との念入りな打ち合わせなどもご協力いただき、今回の研修を通じ、伝えたい目標・学んでほしい期待（成果）を実現出来る様、受入関係者とも下打ち合わせ、準備を進め、参加研修員の訪問となりました。

ですが、計画することのできない気候の影響は、なんともしがたいのです。つまりは、立春以降に、大雪などまだ冬真っ盛りの気候変化が良くあると古くから言われますが、今回の地方視察を終える前日、窓の外にはチラチラと雪模様でした。



目覚めてみると、宿舎の前が、白銀の世界。  
研修員たちは初めての雪に興奮し、初めての雪かきも体験。  
（ただ、研修予定や帰路を延期。）

翌日帰路での影響がないよう、となることを踏まえ、現地視察最終日のプログラムの内容を少し

早めに切り上げる方向で、ご協力いただいた関係者皆様とも打合せしつつ、進めました。

が、翌朝、なんと想像（予報）以上の数10cm単位以上の降雪でした。この雪自身、アフリカ諸国からの研修員にとっては、見たことのない、雪。嬉しい初体験なのですが、帰路の確保、想定移動がままならず、延泊することとなり、さらに翌日も本来の最短帰路ルート上、高速道路の閉鎖もあり、遠回りですが、ルート変更するとして、視察を終えることとなりました。

今回の地方視察については、現場の住民グループの皆さんのご協力があったこそ、研修員の学びに結びつけられたものですが、気候の影響とはいえ、多くの関係者にご迷惑をおかけし、研修プログラムの検討において、可能な限りの外部要因（気候など）の考慮も重要だと気づきました。

急な延泊のための宿泊場所確保のほか、日程変更にあわせたプログラム調整などなど、多くのご支援、ご協力をいただいた地元の有識者の皆様はじめ、住民の方々の臨機応変な対応に感謝申し上げます。

視察先の住民の方ばかりでなく、事業に関係する皆様やプログラム延期になったことに対し文句も言わない研修員にも、地方視察をサポートしてくださる方々一人ひとりに対し、感謝の念です。人との関わり、支援いただけたことに感謝を忘れてはいけません。

事務局としては、事前予定のプログラムに大きく影響せず、無事、全体プログラムを修了出来るよう、遠くから祈るばかりでした。（当日、事務局近辺は、降雪なく、高速道路閉鎖などに驚きで。日本も広いものです。）

以上

（文責・事務局 浅野）

#想定 #相互協力 #農村 #生活改良